

マンション管理員検定講座担当講師に聞く！ マンション管理員検定「勝てる勉強法」

1 出題のパターンを想定しながら勉強する

マンション管理員検定は、ほとんどが公式テキスト及び公式問題集から出題されます。テキストの内容を1つでも多く覚えることが好成績を収めるためには必要不可欠となります。

しかし、当然ですが試験である以上、誤りの肢が存在します。出題者が、どのような意図で、この問題を作成したのかを考えて解かなければなりません。また、すべての問題が公式問題集とまったく同じというわけでもありません。新規の問題も当然ですが出題されます。

そこで、考えておくべきは、単に知識を暗記する勉強ではなく、“どこが狙われやすいのか”、“どのように出題されるのか”を考えながら、公式テキストを読むことです。

それでは、ひっかけのパターンをいくつか確認してみましょう。

① 数字を変えてくるパターン

ひっかけ問題で一番オーソドックスなものは、数字を変えてくるパターンです。

例1) 1週間以上前 ⇒ 5日以上前

例2) 60cm以上 ⇒ 50cm以上

数字が出てきたら必ず押えるのは、試験の鉄則といえます。

② 文末表現を変えてくるパターン

意外とひっかかるのが、文末表現を変えてくるパターンです。

例) ○○することができる ⇒ ○○しなければならない

“することができる”というのは、任意ですので、やってもいいし、やらなくてもよい、当事者に判断が委ねられています。“しなければならない”というのは、義務です。やらなかった場合は、契約違反や法令違反等になってしまいます。

③ 断定的表現を入れてくるパターン

断定的表現を入れることで、例外の存在を問うパターンです。

例1) 絶対に～しなければならない。

例2) ○○しかない。

“絶対に”や“必ず”といった断定的表現は、“例外なく”という意味で用いられます。つまり、出題のパターンとしては、“絶対に～しなければならない”⇒“実は例外がある”⇒“絶対ではないので誤り”とするものが多くなります。

④ 個数問題とするパターン

管理員検定では、個数問題が出題されます

次の記述のうち、適切なものはいくつあるか。

ア ○○ イ ×× ウ △△ エ □□ オ ●● カ ▲▲

- 1 二つ
- 2 三つ
- 3 四つ
- 4 五つ

公式テキストで、番号が振ってあるものや、数が明記されているもの（例：次の5つです）は、個数問題で出題されやすいので注意が必要です。個数問題は単純な四肢択一と比べ、消去法で答えられない分、難易度が高くなります。出題されそうな箇所を重点的に覚えましょう。

⑤ 用語の定義を入れ替えるパターン

似たような用語がでてきたら、それを入れ替えるパターンがあります。

例) 漏電遮断器は、一定以上の電流が流れると自動的に電気が遮断される仕組みの機器である。
⇒ これは過電流遮断器の定義

これも意外とひっかかりますので、注意して覚える必要があります。

2 解き方の注意

勉強が進んでくると、問題を深読みしすぎて間違ってしまうということがあります。解答の基本は、問題文中に明示されている条件で判断することです。注意しましょう。

例) 区分所有法では、集会の招集通知は、集会の会日の1週間以上前に発しなければならないとしている。

上記の例ですが、条文の記載どおりですので、正しい問題となります。これについて、問題文には記載がないのに、“建替え決議は2ヵ月前だから1週間以上前ではない”とか、“規約で変更できるから、1週間以上前とは限らない”と考えてしまい、誤りとしてしまうことがあります。与えられた条件のみで正しいか誤りかを判断し、それでも答えが出なかった場合に、例外的な規定を問われているのではないかと考えるようにしましょう。